

(2016年4～6月)

1 治安情勢及び一般犯罪の動向

(1) 4月14日夕刻、ガザ地区より1発のロケット弾が発射され、イスラエル領シャアル・ハネゲブ地区(境界より約5km)周辺の空襲サイレンが吹鳴、イスラエル側の開豁地に着弾した。

(2) 5月3日夜、ガザ地区より数発のロケット弾が発射され、イスラエル領シャアル・ハネゲブ地区周辺の空襲サイレンが吹鳴、全てのロケット弾がイスラエル側開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル空軍による報復攻撃が実施された。

(3) 5月10日夜、ガザ地区より2発のロケット弾が発射され、イスラエル領シャアル・ハネゲブ地区周辺の空襲サイレンが吹鳴、全てのロケット弾がイスラエル側開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル空軍による報復攻撃が実施された。

(4) 5月15日夕刻、ガザ地区より1発のロケット弾が発射され、イスラエル領シャアル・ハネゲブ地区周辺の空襲サイレンが吹鳴、全てのロケット弾がイスラエル側開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル空軍による報復攻撃が実施された。

(5) 5月18日夕刻、ガザ地区より3発のロケット弾が発射され、イスラエル領シャアル・ハネゲブ地区周辺の空襲サイレンが吹鳴、全てのロケット弾がイスラエル側開豁地に着弾した。

(6) 5月25日深夜、ガザ地区より1発のロケット弾が発射され、イスラエル領シャアル・ハネゲブ地区周辺の空襲サイレンが吹鳴、ロケット弾はイスラエル側開豁地に着弾した。これを受けて、イスラエル空軍による報復攻撃が実施された。

(7) 5月27日深夜、ガザ地区より1発の迫撃砲弾が発射され、イスラエル側の開豁地に着弾した。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の実例

日本人の被害の報告はない。

3 テロ・爆弾事件発生状況

昨年10月以降、イスラエル人とパレスチナ人との間の緊張の高まりを受け、エルサレム旧市街を含む東エルサレム、ヨルダン川西岸地区等における治安が悪化した。10月中旬以降は、エルサレム中心部だけではなく、テルアビブその他の都市においてもテロ事件が発生、一連の衝突でイスラエル人、パレスチ

ナ人合わせて100名に近い犠牲者が出るに至った。2016年に入って以降鎮静化傾向にはあるものの、引き続き予断を許さない状況が続いている。イスラエル国内で発生した主なテロ事案は以下のとおり。

(1) 4月3日午前、ローシュ・ハイアン（テルアビブ市の北東に隣接）において、アラブ系イスラエル人による刺傷事件が発生、1名が軽傷を負った。犯人は、後刻逮捕された。

(2) 4月18日午後、西エルサレム南部のモシュ・バラム通り（旧市街の南西5km）において、路線バスが爆発・炎上し、23名が重軽傷（うち2名は重体）を負う事件が発生した。5月29日に至り、ハマス・セル数人が容疑者として逮捕された。

(3) 4月22日午前、東エルサレムのアブ・デイスにおいて、違法武器製造工場（パイプ爆弾、サブマシンガン、弾薬を製造）を摘発、工場内にいたパレスチナ人数名が逮捕された。

(4) 5月2日深夜、エルサレム旧市街のライオン門付近において、イスラエル人男性がパレスチナ人に刺され重傷を負う事件が発生、後刻、犯人は逮捕された。

(5) 5月4日夜、エルサレム旧市街にて、不審な行動を取っていたアラブ人女性が国境警察官による職務質問を受けたところ、ナイフ所持が確認され、その後のアラブ人女性の供述から、刺傷未遂であったことが確認された。

(6) 5月10日早朝、エルサレム市タルピヨット地区にて、イスラエル人女性2名がナイフで刺される事件が発生、犯人のパレスチナ人は、後刻逮捕された。

(7) 5月16日午後、エルサレム旧市街ダマスカス門付近において、パレスチナ人による刺傷事件が発生し、イスラエル人1名が重傷を負った。犯人は、後刻逮捕された。

(8) 5月18日午後、エルサレム旧市街のダマスカス門行のバスに乗車していたパレスチナ人少年が、たまたま乗り合わせた国境警察官により、ナイフ所持及び警察官襲撃を企図していた事実が確認された。

(9) 5月30日夕刻、テルアビブ中心部アズリエリビル付近において、パレスチナ人少年のイスラエル兵士に対する刺傷事件が発生、兵士は軽傷を負い、犯人はその場で逮捕された。

(10) 6月8日夜、テルアビブ中心部サローナ・マーケットのカフェにおいて、パレスチナ人2名による銃乱射事件が発生、4名が死亡、16名が重軽傷を負った。犯人は、後刻、現場近くで逮捕された。

(11) 6月16日午後、エルサレム旧市街ダマスカス門付近において、パレスチナ人による路線バスへの投石事件が発生、犯人らは付近にいた警察官に逮捕

された。

(12) 6月17日午前、エルサレム旧市街内において、イスラエル国境警察官に対するパレスチナ人女性による刺傷未遂事件が発生、犯人はその場で逮捕された。

(13) 6月26日午後、エルサレム旧市街「神殿の丘」において、覆面のパレスチナ人数名による投石等暴力事件が発生、犯人のパレスチナ人青年4名は、その場で逮捕された。

(14) 6月30日夜、ネタニア市のマーケット（テルアビブ市北30km）において、パレスチナ人がイスラエル人2名をナイフで刺し重軽傷を負わせる事件が発生、犯人は、その場に居合わせた銃を携帯した一般人により射殺されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害の報告はない。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られない。

6 日本企業の安全に関する諸問題

JICA、JETRO及び日系企業関係者に対し、不測の事態に備え、緊急連絡体制の整備・訓練の実施。また、出張者等が当地を訪問する場合は、短期間の滞在であっても連絡先を当館へ通報するよう指導している。

7 日本人安全対策のために取った具体的措置

(1) 以下注意喚起につき、一斉メール（在留届・たびレジ登録者（短期滞在者）宛）及び当館ホームページに掲載を行った。

(ア) 4月6日：伊勢志摩サミットに向けた注意喚起（広域情報の発出）

(イ) 4月18日：エルサレムでのバス炎上事案（注意喚起）

(ウ) 4月21日：ユダヤ教・イスラム教の祝祭日等をひかえた安全対策について（注意喚起）

(エ) 5月10日：安全対策とイスラエル独立記念日等の祝祭日及び金曜礼拝をひかえた注意喚起

(オ) 5月13日：伊勢志摩サミットをひかえた特別警戒期間（広域情報）

(カ) 5月30日：ISILによる欧州におけるテロに言及したメッセージ発出（広域情報の発出）

(キ) 6月2日：安全対策とラマダン・金曜礼拝等をひかえた注意喚起

(ク) 6月8日：テルアビブ市内における銃撃事件の発生について（注意喚起）

(ケ) 6月9日：テルアビブ中心部における銃撃事件，ラマダン期間・金曜礼拝等をひかえた安全対策と注意喚起について

(2) たびレジ登録者（短期滞在者）を対象とした注意喚起メール。

4月7，14，21，27日。

5月5，10，19，26日。

6月9，16，23，30日。